





秋には、果樹の植え方や植栽のメンテナンス講座、利活用の推進が求められる竹林の

畑の畝づくりと春の定植。力を合わせて溝を掘り、エンヤコラと畝づくり。堆肥を育てるコンポストもつくりました。

第2回は、ファームハウスの畑では何を育てる？

雨落ちや駐車スペースなど、多孔質で透水可能な雨庭づくりの端緒を皆でつくり、外部空間の床のあり方、滞在場所、動線計画と排水計画と地形を考えました。

第1回は、ファームガーデンの全体計画、外の居場所づくり。

ファームハウスの庭を自分でつくるためのヒントのレクチャーを受け、実作業も行いました。

春の開催は、全2回。

その後、外まわりは、DIYガーデンスクールとして、ワークショップを開催。

お昼ご飯は、釜の飯と、お手製のおかずで舌鼓。

真壁あらわしの壁の仕上げは、湯布珪藻土。左官仕事を、施主と仲間で協働。

目産自消の家」と題し、自ら野菜を育て、エネルギーも自給できる家をつくる。という「FARMHOUSEプロジェクト」らしく、木の架構はふるさと兵庫県産木材の杉普請。

建てる終わりではなくて、持続可能な農ある暮らしを、みんなで考え、体を動かして学びます。

つくる工程では、積極的に自力建設を推進。ワークショップという形で、プロフェッショナルの持ち得る理念を座学で共有した上で、フィールドワークも実践しました。

押部谷

ファームハウス

ウ・ス